KJS

京都社会学年報

第 26 号
2018年12月

〈論　　文〉

W. シュルフターによるヴェーバー的研究プログラムの再構成（下）　田中　紀行
—— 現代社会学理論の文脈の中のヴェーバー受容 ——

AI 時代の映像学　宋　基燦
—— その限界と可能性 ——

クィア理論とトランスジェンダー　田多井俊喜
—— 性的差異について ——

誰が奈良公園を保存したのか　堂本　直貴
—— 1939 年から 51 年の公園地解除の議論から ——

戦時期日本におけるウェーバー研究とアジア社会論　吉　琛佳
—— 日本オリエンタリズム論から二重構造へ ——

〈書評論文〉

四大陸の親密性　山下　嗣太
—— 自由主義と植民地主義の共犯関係 ——
Lisa Lowe,
The Intimacies of Four Continents
（Duke University Press, 2015）

ポストコロニアル社会理論の可能性　吉　琛佳
Julian Go,
Postcolonial Thought and Social Theory
（Oxford University Press, 2016）

〈論文翻訳〉

『ケルン社会学・社会心理学雑誌』（*KZfSS*）にみる社会学の歴史（上）
シュテファン・メビウス
梅村　麦生　訳

26　京都大学文学部社会学研究室

［編集規定］

1．本誌は京都大学大学院文学研究科行動文化学系社会学研究室の機関誌として、年１回発行する。

2．１）本誌の編集は、「京都社会学年報」編集委員会の責任のもとに行われる。

２）編集委員会は本研究室の教員および大学院生代表者により構成される。

３）編集委員会に関するその他の細目は別に定める。

3．本誌には、研究論文のほかに、書評論文、資料等の欄を設ける。

4．１）本誌の投稿者は、原則として京都大学大学院文学研究科行動文化学系社会学研究室に所属する専任および非常勤の教員、ならびに大学院生・研修員、研究生とする。

２）投稿に関する細目は別に定める。

5．論文等は、未公刊のものに限る。

6．論文等は、編集委員会によって審査され、その掲載について検討される。

7．本誌に掲載された原稿の著作権は、社会学研究室に帰属するものとする。著作者が本誌に掲載された文章を再録しようとする場合は、事前に本研究室に届けでる。

8．１）論文等の原稿は、所定の執筆要項に準拠したものに限る。

２）執筆要項は別に定める。

京都社会学年報

第26号
京都大学文学部社会学研究室　2018年12月

目　次

〈論　　文〉

W. シュルフターによるヴェーバー的研究プログラムの再構成（下）　田中　紀行　1
―― 現代社会学理論の文脈の中のヴェーバー受容 ――

AI 時代の映像学　宋　基燦　27
―― その限界と可能性 ――

クィア理論とトランスジェンダー　田多井俊喜　51
―― 性的差異について ――

誰が奈良公園を保存したのか　堂本　直貴　63
―― 1939 年から 51 年の公園地解除の議論から ――

戦時期日本におけるウェーバー研究とアジア社会論　吉　琛佳　89
―― 日本オリエンタリズム論から二重構造へ ――

〈書評論文〉

四大陸の親密性　山下　嗣太　105
―― 自由主義と植民地主義の共犯関係 ――
Lisa Lowe,
The Intimacies of Four Continents
（Duke University Press, 2015）

ポストコロニアル社会理論の可能性　吉　琛佳　113
Julian Go,
Postcolonial Thought and Social Theory
（Oxford University Press, 2016）

〈論文翻訳〉

『ケルン社会学・社会心理学雑誌』（*KZfSS*）にみる社会学の歴史（上）
シュテファン・メビウス
梅村　麦生　訳　123

〈執筆者紹介〉（掲載順）

インターネットが利用可能な方は、社会学研究室ホームページ（http://www.socio.kyoto-u.ac.jp/）をご参照ください。

田中　紀行
准教授
社会学史、社会学理論、知識社会学
現在の研究テーマ：ヴェーバー社会学の再編成と継承に関する研究

宋　基燦
立命館大学映像学部　准教授
エスニシティの社会学、在日コリアンの民族教育を研究する傍ら、映像人類学の方法論についても関心を持っている。宋基燦、2012、『「語られないもの」としての朝鮮学校―在日民族教育とアイデンティティポリティクス』岩波書店

田多井　俊喜
非常勤講師
ジェンダー論、トランスジェンダー研究
現在のテーマはトランスジェンダーのアイデンティティ形成・セクシュアリティ研究・雇用問題。
田多井俊喜、2018、「言説に先立つ生理的身体―「性同一性障害」と言説―」『現代の社会病理』33 : 115-129。

堂本　直貴
博士後期課程 3 年次・日本学術振興会特別研究員 DC
歴史社会学（日本近現代史）、都市社会学。
現在の研究テーマは、地方都市公園、とりわけ奈良公園における歴史的な事例から、前近代と近代の衝突や融合を研究している。

吉　琛佳
博士後期課程 2 年次
社会学理論、社会学史、知識社会学。
現在の研究テーマ：東アジアにおける社会学古典理論の受容
E-mail: kichichenjia@yahoo.co.jp

山下　嗣太
博士後期課程 3 年次
都市研究

梅村　麦生
日本学術振興会特別研究員 PD
理論社会学、社会学説史
現在の研究テーマ：時間の社会学、ドイツ語圏の社会学史・社会科学史
E-mail: umemuramugio@gmail.com

編集後記

▼掲載論文が少なくなってしまった前号に比して、今回の第26号では計8本の論文・書評論文・論文翻訳を掲載することができました。こうして一定数の論文が掲載されつづけることで、本誌が、院生たちが比較的気軽に活用できる論文掲載の場として機能していくことを願っております。しかし同時に、本誌はすでに電子化されており、「紀要」としてのみならず、たとえば専門社会調査士認定等にも活用されうる「査読誌」として確立されてきています。編集作業をおこなう途上では、これらの二重の役割のなかでゆらぐ本誌の姿が垣間みえてきました。前号においても編集代表が触れられていたように、あらためて本誌の位置づけが問われているのかもしれません。次号以降ではこうした点について、院生を中心として話し合う場を設けていきたいと考えております。最後に、今号の完成に至るまでご支援いただきました研究室内外のみなさまへ、心よりお礼申し上げます。

第26号編集委員　D2　鈴木赳生
D3　堂本直貴　D2　吉琛佳　M2　河原優子

▼近年、社会学研究室の国際化はとみに顕著になっているようです。現在、研究室には50名近い院生、ODが在籍していますが、その三分の一は海外からの留学生です。大学院研究生に至っては12名中11名が留学生で占められています。また研究室から海外の大学に留学する院生も増えています。今号にも、韓国からの留学生で今は立命館大に勤めている宋基燦くんや中国からの留学生の吉琛佳くんが興味深い研究のいったんを披露しています。また田中先生はハイデルベルク大学研修中、山下くんも2019年からアメリカの大学の博士課程に在籍予定です。こうした教員や院生の移動(流動性)の増大は研究室のコミュニケーションや運営にも大きな変化をもたらしています。様々な地域や教育研究機関の「文化」や「作法」が交歓したり衝突したりしながら、社会学研究室の新しいあり方を作り上げているようにも思われます。投稿論文のピアレビューを始め、この雑誌の編集作業の過程にもこうした変化を感じることができました。

『京都社会学年報』編集代表　松田素二

〈査読委員〉
松田素二　落合恵美子　太郎丸博　田中紀行　ステファン・ハイム　安里和晃

京都社会学年報　第26号

2018年12月25日発行

編　集　京都社会学年報編集委員会
（編集代表　松田 素二）
発　行　京都大学大学院文学研究科社会学研究室
〒606-8501　京都市左京区吉田本町
TEL 075-753-2758　FAX 075-753-2836
製　作　株式会社 田中プリント
〒600-8047　京都市下京区松原通麩屋町東入
TEL 075-343-0006　FAX 075-341-4476

EYE LOVE EYE
この本はそのまま読むことが困難な方のために、営利を目的とする場合を除き、「録音図書」「拡大写本」等の読書代替物への媒体変換を行うことは自由です。製作の後は発行人へご連絡をください。

《Editorial Regulations》

1. This journal is an annual publication of the Department of Sociology, Graduate School of Letters, Kyoto University, Kyoto, Japan.
2. i) This jounal is edited by the Editorial Board of the Kyoto Journal of Sociology.
   ii) The Board consists of the professors and postgraduates of the Sociology Department.
   iii) Detailes of the regulations of the Board are specially provided.
3. Contributions to this journal may be in the form of articles, review essays, etc.
4. i) Contributors are generally limited to professors and postgraduates of the Department of Sociology, Graduate School of Letters, Kyoto University.
   ii) Guidelines for contributors are specially provided.
5. Contributions are limited to previously unpublished articles.
6. Review of contributions is carried out by the Editorial Board.
7. The copyright for each article included in KJS belongs to the Department of Sociology. In cases any article published in KJS is reproduced elsewhere, the author should notify the Department in writing.
8. i) Manuscripts submitted for review must follow the writing guidelines for contributors.
   ii) The writing guidelines for contributors are specially provided.

KJS

Kyoto Journal of Sociology

No.26 December 2018

ARTICLES

W. Schluchter's Reconstruction of the Weberian Research Program:
Weber-Reception in the Context of Contemporary Sociological Theory (2)
Noriyuki TANAKA

The Image Studies of the AI Era:
The Limitation and the Possibility
Kichan SONG

Queer Theory and Transgender People:
On Sexual Differences
Toshiki TATAI

Who Saved Nara Park?:
Debate on Closure of Parkland from 1939 through 1951
Naoki DOUMOTO

The Reception of Max Weber's Asia Study in War-time Japan
From Japanese Orientalism to Dual Structure
JI Chenjia

REVIEW ESSAYS

Lisa Lowe,
The Intimacies of Four Continents
(Duke University Press, 2015) Tsuguta YAMASHITA

Julian Go,
Postcolonial Thought and Social Theory
(Oxford University Press, 2016) JI Chenjia

ARTICLE TRANSLATION

Stephan MOEBIUS,
Die Geschichte der Soziologie im Spiegel der *Kölner Zeitschrift für Soziologie und Sozialpsychologie* (*KZfSS*) (Japanese translation, 1st part)
Mugio UMEMURA

Department of Sociology, Faculty of Letters,
Kyoto University, Kyoto,606-8501,Japan

26